

日本地震学会の金森博雄名誉会員が、2007年に受賞された京都賞の賞金の一部を、地震災害後の被災地・被災者のために社会活動を行う資金に充当する目的で日本地震学会に寄付されたことをきっかけに、2008年1月に設けられました。2024年3月末現在の基金残高は、3,733,697円です。

社会活動基金(金森基金)の事業は、2023年度までに計12回、4つの地震の被災地で行われ、大きな地震で揺すられた人たち850人以上の疑問に答えてきました。1回目から変えていないテーマは、「地震の前から分かっていたこと、この地震が起きたことで分かったこと、さらにまだ研究しないと分からない謎があること」を伝えること。報道などではなかなか伝わらない地震学の等身大の実力をもとに、分かっている限りのことを伝えるという場です。開催地は被災自治体などからの公募を受け付けており、大会企画、災害調査及び普及行事の3委員会の共管で事業案と担当者を決め、理事会承認で実施しています。

住民セミナー「分かっていたこと、分かったこと、分からないこと」

2008年岩手・宮城内陸地震

- ・2008年7月26日(土)栗原市(参加者約150人)、27日(日)一関市(同約120人)
- ・2015年7月18日(土)栗原市(同約100人)

2011年東北地方太平洋沖地震

- ・2014年7月12日(土)宮古市(参加者20人)、13日(日)大船渡市(参加者30人)
- ・2015年10月3日気仙沼市(参加者22人)

2016年熊本地震

- ・2016年8月17日:阿蘇市(参加者約150人)
- ・2017年8月10日:益城町(参加者約30人)

2019年山形県沖の地震(公募)

- ・2019年9月4日(水)新潟県粟島村(参加者120人)



想定被災地での活動を基金で支援、毎年のぼうさいこくたいにも出展

2018年3月の理事会で、「社会活動基金運用に関する規程」を改訂、寄付者の金森氏も快諾を得て、学会主催の「想定被災地」での社会貢献事業(下線部)にも活用できるとし、国内最大級の防災イベントである内閣府のぼうさいこくたいにも、ほぼ毎年、出展する経費に充当しています。(こくたい出展料は無料)

基金に該当する事業

- (1) 地震災害の被災地で、地元の住民向けに行うセミナーや説明会などの開設準備や実施。
- (2) 地震災害の被災地に対して地震学が貢献できる社会活動のあり方に関するシンポジウムなどの実施。
- (3) 全国各地で想定される地震災害の被災後に、住民らに解説を行うために必要となる地方単位での地震活動を分かりやすく説明できる資料の作成。
- (4) その他、地震学会が地震災害の被災地だけでなく、地震で被災が想定される地域住民に対して貢献できる社会活動。(社会活動基金運用に関する規程から)

・ぼうさいこくたい2018東京ビッグサイト(参加者約60人)「首都直下地震」、ぼうさいこくたい2020広島オンライン開催(参加者約102人)「中国地方の地震活動」、・ぼうさいこくたい2021釜石ハイブリッド開催(参加者約160人)「東北地方の地震」、・ぼうさいこくたい2022神戸ハイブリッド開催「近畿の地震」、ぼうさいこくたい2023横浜ポスター出展とイグナイトステージでの地震学会活動紹介。ぼうさいこくたい2024熊本セッション(活断層学会と共催)「熊本地震はどんな地震だった? 何が分かって、何が分かってないの?」

1946年南海地震、南海トラフ地震(公募・共催徳島大)「多様な南海トラフ巨大地震」

- ・2023年12月24日(水)徳島県海陽町(参加者約110人、約20人の小学生から事前質問)